第 493 号
2024 年 7 月 27 日

土佐のわらべ

オーテピア高知図書館
子どもの本の読書会だより

《第 515 回(2024 年 7 月 11 日) 子どもの本の読書会記録》 参加者:6 人
時間:10:00～11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『じゅげむの夏』 最上 一平／作, マメイケダ／絵 佼成出版社

7月の読書会では、『じゅげむの夏』を読みました。第70回青少年読書感想文全国コンクール小学校中学年の部の課題図書です。小学4年生の幼なじみ4人組。そのなかの一人、かっちゃんは筋ジストロフィーという病気です。筋肉がやせて、体が動かなくなっていくかっちゃんが、4年生の夏休みを最高の夏休みにしよう、と言います。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●子どもが書いたようなイラストが味がある。かっちゃんの病気のこともわかっていて、遠慮なく遊んでいる仲良し4人組がいい。みんなで歩いていくと、かっちゃんが遅れるので、3人はバカなことをして待っている。そこも4人らしくてよかった。おばけトチノキを見に行く途中で、赤ちゃんのようにハイハイするかっちゃんや、かっちゃんがトチノキの下に埋める紙に将来の夢をたくさん書くところが切なかった。

●男の子4人の個性がバラバラ。「冒険」が日常の遊びのなかにあり、身近なこととして読めた。みんな、かっちゃんの病気のことを知っていて、病状に合わせて行動する。かっちゃんの普通がぼくら3人の普通。天神橋から川に飛び込むところは、誰も「早く」と言わない。橋の上と、川の中で待っていて支えてくれるところもよい。笑える楽しいラストもよかった。友情とたくましさとやさしさで、ホッとして本を閉じた。

●かっちゃんのことを3人はよく理解していて、対等。過剰に手を貸さず、かっちゃんの気持ちを尊重している。かっちゃんがいることで、来年は今年と同じ夏にはならないことを知っている。自分たちの力ですてきな夏にできてよかった。川に飛び込む場面の絵やトチノキまでの地図が好き。トチノキの下にある泉の、水の甘さについて語るところもよい。こういう本を子どもたちに読んで欲しい。

●表紙だけで夏であることがわかる。じゅげむが仲間内の呪文のようで、4人の結束が分かる。病気のことがあるので楽しいだけではないが、楽しい雰囲気で過ごせているのは努力をしているから。話には出てこないが、まわりの大人が環境を整えているから子どもたちが安心して過ごせる。特別ではない普通の夏が、友だちがいることで冒険になる。やさしい楽しい夏休みの話。

●楽しく過ごしながらも、ときどき、かっちゃんの病気のことを突き付けられる。みんな口には出さないが、かっちゃんの気持ちも病状も分かるから、夏休みの冒険に付き合う。天神橋から飛び込みをしたいと言うかっちゃんのことをみんなとても心配していて、無鉄砲な小学生ではない。集落の習わしをかっちゃんにも経験させて、一緒に成長したい。4人で過ごしたこの夏休みは、みんなの心の中に残り続けると思う。

●病気の進行を感じながらも一緒に過ごした夏は4人にとって特別な夏。かっちゃんのやりたい冒険は、病気のかっちゃんには難しいこともいっぱい。どうやるか4人で知恵を出し合い計画を立てて実行する。かっちゃんの意思やできることを尊重して、今のかっちゃんを受け入れる、この4人の姿は理想だ。この夏の思い出がかっちゃんの力になるとよい。4人と同じ10歳の子どもたちの感想を読んでみたい。

次回 9 月 12 日(木)10:00～11:30 オーテピア 4 階集会室
📖『モノクロの街の夜明けに』 ルータ・セペティス／作, 野沢 佳織／訳 岩波書店
※申込み・参加費は不要です。